

(048)

る、みたいなイメージです。

自分を刻み込むのはぼくの流儀ではない

平野 「原理」みたいなものですね？  
藤本 そう。新しい原理です。「こういう図書館っていままでなかったけど、でも図書館って、こういうふうななにかだよね」みたいな核心に触れたい、っていう感じかな。

平野 藤本さんの建築って、コンセプトも形もぜんぶちがうけど、いろいろと見ていくうちに、なんとなくひとつのイメージが立ちのぼってきたんです。

平野 ああ、なるほど。  
藤本 「核心に触れている新しさ」みたいなもの、それを見つけたかと思っているんです。

藤本 え、なんですか？

平野 もしかして、思考オタク？  
藤本 そうかも(笑)。それが空間と連動すると最高なんですけど。ぼくはどうもそういうことが好きみたいです。

平野 未開社会の集落です。アフリカのヌバ族みたいな……  
藤本 ヌバ？

平野 あえて自分のスタイルを投影しなくても、そこにある種の発見さえあれば、藤本さんとしてはおもしろいと。

平野 なぜだろう？ なんでオレは未開社会の集落をイメージしたんだろうって考えたんだけど、たぶんリズム感なんですよね。藤本作品には強烈な「グルーヴ」があるんですよ。

藤本 最近考えているのが、自分ひとりにはなかったものを、自分ひとりにはなかったもので膨らませる、っていうこと。

藤本 グルーヴ!?

平野 うん。

平野 そう、グルーヴ感。ジャズにはジャズの、ソウルにはソウルの、雅楽には雅楽のグルーヴがあるように、藤本さんの建築もグルーヴしている。これは他の建築にはあまり感じることのない感覚です。

藤本 「集合住宅といえば、あれを挙げないわけにはいかないよね」って後々の人が思い浮かべるようなものを可視化する

藤本 なにおっしゃっているのか、ぜんぜんわからないです(笑)。

平野 はい。  
藤本 「集合住宅」といえば、あれを挙げないわけにはいかないよね」って後々の人が思い浮かべるようなものを可視化する

平野 藤本さんの建築はポリリズムでできている。とても音

(049)

(L'Atelier Blanc ©SFP/ALIA+OXO+RS)



フランス・モンペリエの集合住宅の完成予想図。かつて見たことのないシルエットだ。